


取組【10】	観光客の足となる二次交通手段の整備	 連携④⑥
観光地の資源特性 ◎：優先的に実施 ○：基本的に実施 ★：特に配慮して実施		実施主体 （特に効果が高いもの）
○街並み ○都市 ○社寺 ★自然風景 ★スキー場 ★農山村地 ○温泉		<input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 観光推進組織 <input checked="" type="checkbox"/> 民間事業者
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 取組の狙い </div> <p>○二次交通手段を整備することで、各観光施設やイベント会場への移動をスムーズにすると共に観光客へ地域の周遊ルートを提示する。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 取組推進・障害打開のポイント </div> <p>○地域の実情に応じた適切な交通手段の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路の状況や駐車場の位置等の地域の交通事情を的確に把握し、様々な交通手段のうち、どれが地域に適しているかを検討する必要がある。 例えば、ベロタクシー等の観光地内の距離を想定した手軽なものも視野に入れることで、観光客にとっての選択肢の幅を広げることも可能になる。また、オンシーズンとオフシーズンの入り込みの差が激しく、定期的なバス等の運行が困難な地域では、乗り合いタクシーの活用も効果的である。これは、基本的にバス停に停車する定期バスと同じシステムだが、予約をしておくで駅まで送迎に来てくれるなど需要に応じた機動性の高い運行可能になるといったメリットが挙げられる。 <p>○戦略的かつ積極的な見通しにたった導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入する交通手段のルート設定に当たっては、観光客のニーズに合致したルートを検討することが前提となるが、観光地として経由させたいルートも想定することにより、両者をすり合わせて戦略的に設定することが必要である。 バス等の車両自体も地域のイメージ（コンセプト）に合ったものにするすることで、交通手段そのものも観光対象として積極的に位置づけることで、より一層の乗車率の向上と地域の魅力の発信が可能になる。 <p>○事前の検証や官民の役割分担による採算性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 不採算路線等にならないようにするためにも、事前に拠点となる施設の整備やルートの検証、社会実験等を十分に実施し、採算性が確保されることを見極めた上で導入することが必要である。 バス等の車両購入に必要な経費については、行政と民間事業者が連携し、車両購入を行政が補助し、その後の運行については民間事業者任せ等の分担をすることも考えられる。 <p>○広域的な交通手段としての整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域内の交通手段としてだけではなく、広域的な交通手段として位置づけることも考えられる。例えば、会津若松～喜多方～米沢間で運行されているレトロバスのように、市町村単位に捕らわれず、観光地域としてのルートを提示するなど、広域的な二次交通手段として導入することも効果的である。 		

期待される効果

- 施設（地域）間の移動がスムーズになり、施設の集客力の向上や観光地としての誘客力向上につながる。
- 地域コンセプトに合った車両の整備をすることで、二次交通機関そのものも観光客の注目を引き、より一層の地域の魅力向上に繋がる。
- 地域の人々の活用も期待され、観光地としての住民意識の活性化も期待される。

連携が必要な取組

- 各種支援制度の効果的活用（No.5）
- 観光資源を体験するプログラムの発掘・実施（No.6）
- 観光資源を表現する施設の整備（No.7）
- 環境・景観の保全、整備（No.8）
- 観光の立ち寄り、情報拠点となる施設の整備（No.9）
- 観光客の移動をサポートする仕組みの導入（No.11）

参考事例

○事例1 まちなか周遊バス「ハイカラさん」の運行開始（喜多方）

城下町特有の道の特性から道路渋滞、それに伴う二酸化炭素による大気汚染が問題となっていたため周遊バスを走らせることによりその問題を解決している。

<特徴>

- ・自家用車から周遊バスに乗り換えさせるパークアンドライド方式とコンセプト（大正浪漫）に沿ったバスの運行が街のイメージアップにも貢献している。
- ・周遊バスに乗り換えさせることによって、大気汚染の軽減も意図的に図っている。

○事例2 観光周遊バス「ぐるり・ぬぷり号」の運行開始（二セコ）

地球温暖化対策関連の事業費を活用し、観光ポイントを周遊するバスを運行することで、夏期の観光二次交通を確保することに成功している。

<特徴>

- ・準備段階において社会実験を実施しており、その結果を踏まえて事業を実施していることが成功のポイントとなっている。

○事例3 人力車事業（角館）

新幹線開通に併せて人力車の運行を開始、現在では事業化され地域の風物詩となっており、移動手段としてはもとより、地域イメージの向上にも役立っている。

<特徴>

- ・観光地域の広さを考慮した移動手段を確保している。
- ・武家屋敷と桜といった地域観光資源のイメージに合った乗り物となっている。